

制服の変遷

1924年[大正13年]

小倉康臣は、運転手の応対や服装は会社の信用を代表すると考え、トラック業界では、類のない制服制帽を採用した。当時としては、非常に斬新なスタイルで、そのスマートさは世間の注目を集めた(写真左は1979年に撮影、右は『大和運輸五十年史』に掲載した写真)



1955年[昭和30年]

大和便をはじめとした運転手の制服を制定



1969年[昭和44年]

創業50周年を記念してリニューアル。上着とズボンの色と車両のツートンカラーを対応させた。宅急便スタート時はこの制服だった。その後、ズボンの改定を実施(右)



1977年[昭和52年]

女性作業制服(SD用)が登場。清潔感と動きやすさを両立(写真は冬服のレプリカ。2019年に撮影)



1983年[昭和58年]

女性社員の制服をグリーンのスリーピースのスーツに変更、ブラウスはグリーンと白のストライプ



1985年[昭和60年] / 1998年[平成10年]

引越らくらくパックの発売に伴い、引越バイザー・ヘルパーの制服を制定。1998年には引越作業の特徴を考慮したツナギスタイルのムーバー制服を導入した



1990年[平成2年]

創業70周年を記念してリニューアル。男女でデザインを変え、女性事務制服にはニットベスト・ジャケットを採用



1991年[平成3年]

「時間便」ライダーのユニフォーム。二輪車の特殊性、転倒時における安全性、対風圧性、運動性、防水性、保温性などを考慮している



2000年[平成12年]

創業80周年を記念してリニューアルしたもの。男女のデザインを揃えた。右はアジア地域の制服で、帽子の色が異なる



2001年[平成13年]

女性事務員制服は、前年リニューアルしたSDの新制服との一体感・連帯感をもたせた



2003年[平成15年]

ヤマトオートワークス設立に伴い整備員の制服を刷新

